

平成26年度 ほくぎん若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
宮城 信	富山大学人間発達科学部・准教授		200,000円
研究課題名	生徒のコトワザの意識と表現の方略に関する基礎的研究		
研究の概要	<p>先行研究のコトワザや慣用句の応用的研究は、「社会でどのように使用されているか」と「教科書でどう扱われているか」の2点に集約できる。本研究では、これらの研究を相互連動的に捉えて学習内容を社会生活に繋げていける手法を考察した。この立場から、生徒たちの日常のある場面に遭遇した際の語の選択という観点から分析を進め、表現の類型化を試みる。辞典類では、実際の使用方法は分からない。用法研究は、研究成果を速やかに現場へフィードバックできる点で実効性も高い実践型研究と位置づけることができる。将来的には、現在現場と協働で行っている表現指導(泉一彦教諭(横浜総合高等学校, 単位制実業系高校))と教材化を進めその成果を問いたい。</p>		
研究の成果	<p>まず、1点目はこれまで知識中心であったコトワザ研究に対して、どの語がどのようにどのくらい使われるのか、またその表現効果はどうであるのか等用法中心の分析・研究を進めたことである。併せて1年分の新聞データに用いられているコトワザも調査した。その結果、新聞記事(特に社説)では、枕や補強材料としてコトワザが用いられていることが確認された。また、もう一つの結論として、残念ながら現在ではコトワザを日常的に用いる生徒は少数派であることが分かった。一方で、コトワザ学習には消極的であるが、潜在的な意欲(「意味を知りたい」、「うまく使ってみたい」という意見)があることも分かった。</p> <p>2点目は、協力校教員と協働でコトワザを用いた表現を教育現場で運用するための教材の開発を進めたことである。現在調査・実践などを基に教材化を検討している段階である。今後、本研究の成果によって現場への高い波及効果が期待される。</p>		
研究成果発表状況	<p>【学会発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城信,「コミュニケーションツールとしてのコトワザの表現価値」 (第126回全国大学国語教育学会名古屋大会, 2014年5月18日) ・宮城信,「ことわざの表現価値と教育」 (第127回全国大学国語教育学会筑波大会, 2014年11月9日) ・宮城信,「文体の慣用句」 (平成26年富山大学国語教育学会, 2014年11月16日) <p>※本年度中に以上の内容をまとめた論文を学会誌に投稿予定。</p>		
経費の執行状況	区分	執行額(円)	備考
	調査資料	116,330円	毎日新聞データ CD 1年分
	関連書籍	38,420円	ことわざ・教育に関連する資料
	記録媒体	5,670円	USBメモリ・CD-ROM
	調査・実践旅費	39,580円	研究打ち合わせ旅費

